

八千代のなし産地の維持・発展に向けて

～梨業組合による高温対策と産地維持への取組～

1 課題の背景とねらい

八千代市のなし栽培は100年以上の歴史があり、人口の多い立地を生かした高品質果実の直売を行っています。近年は産地の担い手不足や高温による障害発生が問題となっており、産地を維持していくには担い手の確保・育成や園地の有効活用、高温対策が重要となっています。

そこで、歴史ある産地の維持・発展に向け、産地の主要な担い手である組合研究部（部員19名）を対象に試験調査活動の支援、組合全体を対象に園地流動化に関する研修会、みどり認定の取得支援を行いました。

2 普及活動の経過・結果

(1) 高温対策試験

研究部ではこれまで様々なテーマで生産面の改善に向けた活動をしてきましたが、コロナ禍をきっかけに主体的な研究活動が停滞していました。そこで、活発な活動を行うためにテーマの設定を支援しました。役員会でテーマ設定を提案し、興味事項把握のためのアンケートの実施について合意しました。アンケートでは、近年産地全体で問題となっている高温対策について関心が高かったため、今年度は「高温対策」をテーマとしました。

具体的には①複数種の袋かけによる日焼け軽減効果の比較、②日焼け防止資材の効果の検証、③かん水記録を行いました。

①では4園でそれぞれ6種類の袋を新高にかけ、収穫期に日焼け果の発生程度を調査したところ、園により効果的な袋は様々でしたが、全体としては一重袋より二重袋の方が日焼け果が少ない傾向でした。

②では果実に散布する日焼け防止資材を3園で散布し収穫期に日焼け果の発生程度を調査したところ、1園では廃棄果実の発生率が無処理区の半分ほどに減少しました。



写真1 袋かけの様子

防雨防虫二重袋(白)1-W(大) A...13 B...1 C...1 D...7 D'...5 落下...16 A品率 [32%]	Eクラフト特大 日焼け防止袋 A...8 B...1 C...2 D...6 D'...1 落下...12 A品率 [26%]
防雨二重袋(特大)(ビ)1-P特大 A...8 B...3 C...2 D...1 D'...2 落下...14 A品率 [20%]	1-S 特大 BGO18(新聞紙二重袋) A...13 B...1 C...3 D...9 D'...0 落下...14 A品率 [32%]
ハトロン防虫特大止り(防ハト特大) A...8 B...5 C...0 D...4 D'...6 落下...17 A品率 [20%]	サンデ S-10(白) A...9 B...2 C...1 D...8 D'...2 落下...18 A品率 [22%]

図1 役員が作成した袋ごとの比較結果表

③ではかん水設備のある2園で、かん水の実態の把握のため、かん水日の記録をとりました。1園ではかん水ほ場ではあきづきのコルク状果肉障害が無かん水ほ場より少ない傾向でした。

今回の試験では結果に一定の傾向が認められず、対策の確立には至りませんでしたが、テーマを設定し研究活動を行ったことで、役員の積極性の向上や部全体の活発な意見交換に繋がりました。今年度はあきづきの高温による生理障害が多発したため、次年度以降は品種を変えて引き続き高温対策に関する活動を継続していく予定です。

(2) 園地流動化に関する研修会

組合では毎年1～2名が離農し、産地の縮小が懸念されているため、産地を維持していくには新たな担い手の確保と、廃園予定等の園地を有効活用していくための園地の流動化が重要な課題です。そこで、12月18日に梨園地の流動化に向けて先進的に取り組んでいる事例から学ぶ研修会を開催したところ9名が参加しました。園地流動化に組合として取り組んだ際の実際の流れや留意点を聞いて、参加者からは「園地の管理は急にできなくなることがあるので事前に対策を立てておくのはいいと思う」といった感想が出されました。これをきっかけに今後の産地維持について検討を進めていきます。



写真2 近隣（船橋市）の事例を学びました

(3) みどり認定の取得に向けて

将来も持続的に梨栽培を継続していくことや様々な事業活用のために、組合員の「みどり認定」への関心が高まっていました。そこで企画振興課と連携し、5月20日に制度の説明会を、7月2日に申請支援会を開催し、環境負荷低減に繋がる取組について、これまでやってきたこと、今後取り組みたいこと等を検討しました。その結果、組合として団体認定取得を進めていくことになり、事務局であるJA八千代市と連携し、準備を進めています。

3 今後の課題

研究部は活動が活発化してきたため、引き続き主体的な活動に向けた支援や優良事例の視察、栽培技術・知識の向上に向けた講習会等により部員の相互研鑽や経営発展を目指します。また、組合として廃園予定園地を有効活用していくための仕組み作りを進めていきます。

4 担当者 八千代グループ

5 協力機関 八千代市、JA八千代市